

令和7年度 学校経営報告書（自己評価）

学校番号	15	学校名	静岡県立御殿場南高等学校	校長名	渡辺 洋介
------	----	-----	--------------	-----	-------

本年度の取組（重点目標はゴシック体で記載）

【達成状況は学校評価アンケートの集計結果(%) 上段は生徒、下段は保護者、()は昨年度の割合】

	取組目標	成果目標	達成状況	評価	成果と課題
ア	学校生活の様々な場面で、全体での目標共有と各自の振り返りを繰り返し行うことで、自己が向上する喜びを知ると同時に、全体としての目的を達成できるような指導を工夫する。	<ul style="list-style-type: none"> ・南高に入学して充実した高校生活を送っている。 90% ・自ら率先して行事・活動に取り組み、他者と目標を共有し、支援できる。 80% ・県・東海・全国大会への出場 	89.6(90.8) 92.6(88.4) 75.1(77.2) 80.2(82.1)	A	部活動でも多くが県大会に出場できた。概ね充実した学校生活を送っている。学校行事に意欲的に参加している。 学年行事を通して一体感が高まり、行事や部活動に前向きに取り組み、友人関係を大切にしながら学校生活を送っている。 文武両道に努める生徒が多く、他者との関り合いながら主体的な取り組みができています。 全ての学校生活に真面目に取り組み、充実した学校生活を送ることができています。
イ	教育活動全体を通じて「大学進学後の社会」を意識させ、学習や進路に対する主体的な意欲・意識を向上させ、困難なことにも挑戦する姿勢や、折れない力の育成を目指す。	<ul style="list-style-type: none"> ・将来の進路に基づき、今行うことを考えて、進路に向けて積極的に行動できる。 90% ・自ら課題を設定し、情報を収集・分析しながら、探究する態度が身につけている。 90% ・苦手や困難に直面しても、最後まで取り組み続けることができる。 90% 	82.0(81.8) 65.3(68.0) 89.0(91.5) 70.3(69.0) 87.6(87.6) 82.8(82.4)	B	文理選択や科目選択の説明会を行い、生徒へ進路について考える機会を設けることができた。 生徒がどのようにして進路を決定しているのか、そのプロセスが保護者に正確に伝わっていないため、昨年も低かったが、さらに低い数値になっていると思われる。 将来の進路選択に関わる文理選択については、説明会や面談を通して丁寧に指導を行い、また探究活動を通して主体的に学ぶ姿勢への理解が深まった。 夏の大学オープンスクール、次年度へ向けた教科選択、キャリアプラン表明書の作成等を通して、進路意識を高めた。 進路実現に向けて、学習や将来の社会貢献に対する意識が向上し、講習や勉強合宿等に積極的に参加した。
ウ	「読み取る」・「考える」・「伝える」を念頭に、主体性と言語活動を重視した授業づくりと「高校生のための学びの基礎診断」等による定着度	<ul style="list-style-type: none"> ・学習の基礎・基本が定着し、基盤となる資質・能力が身につけている。 95% ・全国水準を上回る学力を身につける。 ・国公立大学現役合格者数40名以上 	88.3(92.0) 77.7(77.2)	B	授業や小テスト、課題等を通して、基礎・基本の定着を図ることができた。家庭学習時間を確保していくことが課題である。 ICT機器の活用についての研修を2回行い、各教科で実践することができた。

	<p>の確認・分析を行い、地域の期待に応える進路実績の向上を目指す。また、学習における ICT 機器の効果的な活用を一層推進する。</p>	<p>・家庭学習時間 1 日平均 2 時間以上 ・教科学習における ICT 機器の効果的活用</p>	<p>86.0(80.5) 85.8(81.5)</p>		<p>国公立大学合格者数は一昨年、昨年と順調に伸びているが、学習時間は減少傾向にある。具体的な方策を設定し、本腰を入れて改革を行う時期に来ている。</p> <p>2 時間以上の家庭学習を目標に声掛けを行ったが、学習時間の確保・増加には十分つながらなかった。長期休暇明けには未提出者へのフォローアップ指導を行ったものの、自立した学習の定着には課題が残った。</p> <p>教科学習や探究において ICT 機器を効果的に活用し学力向上に努めている。模試の解きなおしにも力を注いでいるが、学習時間の確保が課題である。</p> <p>1 日の平均学習時間が過年度と比較して少ない。模試の結果も全国水準を上回っていない。</p>
<p>エ</p>	<p>品格ある自律した生活態度と自制心を育成し、日常生活における挨拶の励行等、社会のマナーとモラルの徹底を図る。また、自他ともに大切にすることを心身の健康や安全、防災についての意識を高める。</p>	<p>・校則やルールを理解し、自分で遵守するだけでなく、他人にも啓発にできる。90% ・時間的自己管理ができ、けじめある生活を送り、生活リズムができている。80% ・部活動後の速やかな下校、完全下校時間の厳守 ・スマホ使用時間調査等による自己管理能力の育成</p>	<p>90.6(90.8) 87.9(83.6) 76.2(77.7) 63.3(63.7) 78.2(81.6) 54.3(54.2)</p>	<p>B</p>	<p>生徒心得を周知し自律した生活を送ることができている。完全下校の厳守はできているものの、スマホの使用時間など時間的自己管理ができている人とそうでない人に分かれつつあり、大きな課題である。生活リズムを整えて、学習時間の確保や自己管理能力を高めることに繋げる必要がある。校則やルールを守りけじめのある学校生活ができている。</p> <p>学校生活では基本的なルールやマナーを守ろうとする姿勢が概ね見られた。一方で場面に応じた言動や周囲への配慮、スマートフォンや SNS の利用については、生徒間で意識の差が見られた。</p> <p>概ね校則やルールを守りけじめのある生活ができているが、スマホ利用については更なる啓発を促し、学習時間の確保や自己管理能力を高めることに繋げる必要がある。</p> <p>概ね校則やルールを守り、他人を気遣ったけじめのある学校生活ができている。</p>

様式第3号

	<p>健康教育、交通安全教育を推進する。 防災教育を実施する。</p>	<p>・健康や体力の向上に努め、健やかな心身を意識して自己を管理している。90% ・生活や交通安全、災害に、配慮して活動できる。90%</p>	<p>91.5(92.0) 79.0(80.8) 95.5(94.9) 91.8(90.3)</p>	<p>A</p>	<p>自転車通学者の登下校中の事故が昨年度よりも減少した。引き続き安全意識を高めるとともに、ヘルメット着用率を高めたい。 全体の防災訓練だけでなく、学年ごと、職員対象の研修も行い、防災に対し学校全体の意識が高まった。</p>
<p>オ</p>	<p>SDGs 探究学習や地域における体験活動など多様な学びを通じて、自己の成長とともに地域への貢献を実感できる活動を実施する。</p>	<p>・自らの意見を述べ、他人の意見と調整し、自分の意見を発展させることができる。90% ・1部活動1ボランティア(地域交流活動)</p>	<p>90.8(89.0) 82.3(79.3)</p>	<p>A</p>	<p>推薦入試の合格率の高さは、Cプロジェクトの中で行うキャリアプラン表明書の作成が大きく、それを支えるものとして今年度も探究活動が大きな効果を果たした。 総合的な探究の時間を通して、学校内外における探究的な学びを推進し、生徒の主体性や協働力を高めることができた。 多くの部活動で地域交流をしながらボランティア活動の実施ができた。 探究活動では、地元の企業や大学の人と関わり、自分の考えを表現したり、他者の意見を聞いたりする貴重な経験となった。 基本的な生活習慣が確立している生徒が多く、大きな交通事故も無かった。防災訓練などへの取り組みも熱心であった。 特別活動や部活動を通し、概ね目標を達成できた。</p>
	<p>・文化・芸術に触れることで、視野を広げ、教養を深める。85%</p>	<p>80.4(81.8) 63.5(62.7)</p>	<p>B</p>	<p>朝読書や芸術鑑賞会などを通して、文化・芸術に親しむことができた。 芸術鑑賞会を通して、日本の古典芸能に触れる機会を設け、生徒の理解や関心を深めることができた。 音楽の芸術鑑賞会で教養を深めた。 芸術鑑賞教室などを通し、文化・芸術に親しむことができた。</p>	
<p>カ</p>	<p>自治体・各種事業所・教育機関等との連携・協働を一層推進させ、他地域にはない魅力を持った取組を、授業・行事・部活動等の様々な場面で工夫する。</p>	<p>・家庭、地域との繋がりを理解し、他者と連携して社会に尽くしていこうとする。85%</p>	<p>80.4(84.8) 72.3(70.5)</p>	<p>B</p>	<p>総会や奉仕作業や街頭指導等の出席率も前年を上回ることができた。 また、行政や地域自治体と防災について協議することができた。 探究活動をはじめ、大学訪問、介護講話、防災教育講話、消費者教育講話などを通して、さまざまな教育機関や施設と関わることができた。 地域企業や行政の方々と継続的に関り、地域の課題を知り、解決策を考えることができた。 授業・行事・部活動等では地域を意</p>

様式第3号

					<p>識して取り組んだ。</p> <p>探究活動において、フィールドワーク等の地域連携事業を、自治体や企業の計15団体と実施し、探究学習の深化を図った。</p> <p>また、静岡大学の学生による探究支援を導入した。市議会議員との意見交換会を実施した。</p>
キ	<p>環境整備や業務改善を図りながら、生徒の公共心や教職員の意欲・組織力を向上させ、明るく活力ある学校づくりを推進する。</p>	<p>・公共物や施設、環境に気を配り、清掃・整理など積極的に環境を整える。</p> <p style="text-align: right;">95%</p> <p>・定期点検月1回、随時点検</p>	<p>93.5(93.1)</p> <p>80.5(80.3)</p>	B	<p>清掃や用具の管理など計画的に実施することができた。</p> <p>廊下、階段等は水拭きによる清掃を日常的に行い、校内の環境美化に努めた。施設設備の破損等で工事が必要な個所について、予算要求を行い施設設備の改善に努めた。懸案事項であった別館入口のツバメ対策を行った。</p>
		<p>・補習、部活動における外部人材による支援を広げる。</p> <p>・分掌・学年部の業務ファイルの作成を進め、引継を円滑化</p>		B	<p>「補習等のための指導員派遣事業」を活用し、面談指導等を行った。部活動において、運動部4名、文化部3名の方に外部指導者として、指導に当たっていただいた。</p>